

## 川崎港長期構想検討委員会（第2回）議事録

1 開催日時 令和4年5月31日（火）13時30分

2 開催場所 ステーションコンファレンス川崎

3 出席委員 出席者名簿のとおり

4 議 事

- (1) 第1回委員会での主な意見と対応について
- (2) 川崎港の位置付けおよび将来像について
- (3) 関連計画の検討状況について
- (4) その他

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人数 8名

7 議 事 要 旨

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 議事
  - ア 第1回委員会での主な意見と対応について  
市から内容説明
  - イ 川崎港の位置付けおよび将来像について  
市から内容説明
  - ウ 関連計画の検討状況について  
市から内容説明
  - エ その他  
今後の検討について、市から内容説明

## オ 意見交換

(◎：委員・オブザーバー　○：事務局)

◎

- ・「扇島地区土地利用方針」の中間報告で、扇島はカーボンニュートラルを先導するエリアとして整備するといった説明がされていることもあり、川崎港長期構想では扇島の再開発も念頭に取り込んでいくべき。
- ・現在の扇島の交通アクセスはJFEのプライベートのトンネルと橋、道路のみで、公道がゼロといった状況であるため、長期構想の中でも扇島へのアクセスをしっかりと位置づけていくことが大事。
- ・短期的には首都高のインターチェンジや東扇島と扇島間の一般道になるが、長期的な視点では扇町方面を結ぶ新たなアクセスなどが必要だと考える。
- ・次に、スクラップの件ですが、鉄鋼連盟は、今後2030年代以降に向けて大型電炉を国内で造っていくという方向性を出しており、輸出にまわしている鉄スクラップを全量国内で活用する計画があり、今後の川崎港でのスクラップ輸出への影響も考慮する必要があると思われる。

◎

- ・船舶やトラックドライバーの業界では高齢化が進行しているため、高齢化に対応した働き方ができる港になるとよい。

◎

- ・港で働く方々の快適な環境をつくるとともに、市民にとって新しい魅力のコンテンツが生まれていくような港になるとよい。
- ・長期構想をとりまとめるにあたり、関連計画との関連性を示すとよい。

○

- ・長期構想は関連計画の内容もしっかり踏まえ策定していきたいと考えている。

◎

- ・川崎港がカーボンニュートラルに対応して産業を支え続けるという形で日本をリードするとともに、リサイクル産業の集積という強みも活かして、さらに大きな役割を果たしていけたらよい。
- ・企業間連携のさらなる強化に取り組んでほしい。

◎

- ・大胆な発想の転換により、今後の川崎港の姿を議論していきたい。
- ・川崎は公害に苦しめられた時期があったが、それを克服することで環境技術、環境に対するマインドの強いエリアになったわけであり、ピンチをチャンスに変えていくということが大事。
- ・今後想定される脱炭素化に伴うさらなる事業転換に対応するためには、現行の法規制のままではいいのかの検討が必要。
- ・当検討委員会においては、今後の川崎港の土地利用や法規制を転換するための根拠になるような議論をしていきたい。

◎

- ・今回の資料では、今後の川崎港はカーボンニュートラルがメインになっている印象を受けた。
- ・港で働いている人間が扇島で一番注目しているのは大水深バースであり、大型貨物船をつけられるチャンスであると感じている。
- ・カーボンニュートラルに貢献するとともに、物流機能の強化についても重要な視点であり、将来もっと人が集まる、仕事が集まるような港にしていけるとよい。

○

- ・将来像は6つ掲げており、その1番目はカーボンニュートラルをキーワードにしたものであるが、もちろんカーボンニュートラルだけというわけではなく、例えば2番目には物流関係の将来像を力強く掲げている。

◎

- ・川崎港への道路アクセスや交通渋滞の発生が大きな課題。
- ・カーボンニュートラルについては、川崎港としてのエネルギー政策などを打ち出してもらえると、各社も協力できると思う。立地企業が協力し合い、港全体としてカーボンニュートラル化に取り組んでいけるとよい。
- ・賑わいについては産業と両立し、全体として港をきれいにして、誰もが訪れたい環境になるとよい。

◎

- ・将来像6について、デジタル技術は手段であるため、目標にするものではないのでは。
- ・世界的には、住宅のスクラップ・アンド・ビルドや巨大なプロジェクトを縮小させていこうという話もある。そうすると、プラスチックや金属くずなどのリサイクル資材の発生も抑制されるため、それも踏まえた視点が必要。
- ・臨海部には広大なエリアがあるので、太陽光や風力などエネルギーの地産地消の視点も重要。水素の産地はカントリーリスクを有する国もあるので、BCP的にも自身で作り出すエネルギーは重要である。

○

- ・デジタル技術については、①から⑤の将来像の中に横串のような形で、取組として出てくるものも考えられる。デジタル技術の発達は、今後の急激な社会経済環境の変化の中の、1つの大きな要素であると考えられるため、将来像⑥で表現した。
- ・廃プラスチックの物量については、「カーボンニュートラルコンビナート構想」の検討段階で試算しており、不足している状況である。今後の社会情勢の変化で、再資源化できるようなプラスチックの状況も変わると考えているので、引き続き柔軟に検討しながら対応していきたい。
- ・水素の製造については、「カーボンニュートラルコンビナート構想」の資料の5ページの(1)にイメージ図を掲載しており、ここにローカル水素製造プラントを記載しているように、ローカルでの水素製造も構想の中に入っている。

◎

- ・冷凍冷蔵倉庫は30～50年で更新が必要となる。
- ・川崎にこれだけ冷凍倉庫が集積している理由は、東扇島において大規模な土地を提供頂いたという経緯がある。
- ・冷凍冷蔵倉庫の取扱品目の99.9%が食品で、その多くは輸入品であり、ゴールデンウ

イーク前、夏のお盆前、年末に消費の大きな波が来る。国内輸送はほぼトラックによる輸送であるため、トラックの交通量はこの時期に一気に増加し、渋滞が課題となる。

- ・2024年にはトラックドライバーの労働規制が強化されドライバーの拘束時間が短くなる。そうした場合、渋滞にはまる時間が重大な問題となる。
- ・冷凍冷蔵倉庫の集積は大きな強みであるが、交通が集中し、渋滞が発生してしまうようなことがあればデメリットになってしまうため、交通アクセスの検討が必要。

◎

- ・道路の混雑等の現状の課題を踏まえ、利用頻度の低い運河の在り方については検討が必要ではないか。

◎

- ・川崎港の位置付けは3つの要素で構成されているが、「産業を支える港」と「豊かな生活を支える港」は港の機能を表しており、一方、「持続可能な港」は港の状況を表しているため、3つを並列に並べると違和感がある。
- ・川崎港ではカーボンニュートラルコンビナートの取組があったり、循環型社会に貢献している企業なども立地しているため、環境を支えるといった意味合い、例えば「地球環境を支える港」といった要素をいれるとよい。
- ・「持続可能な港」という表現は、例えば「持続的な発展を遂げる港」や「持続的な発展を遂げ、新たな価値を創造する港」といった川崎港が進化し続ける様子を表すことのできる表現の方が分かりやすい。
- ・川崎臨海部での「就労者の多様化」という意味では、男女比率だけでなく、障害者雇用率などのデータがもしも有れば分かりやすい。
- ・将来像4の説明資料で紹介している多目的トイレは、公園での設置例なので、「就労者の多様化」との直接の結び付けには多くの説明を要すので、広く来港者の多様化に対応しているといった整理の中で掲載した方がよい。

○

- ・位置付けについては、委員会にお集りの委員皆様の御意見を踏まえ、事務局で改めて整理しご提案する。

◎

- ・水環境の面では、水質は大きく改善されたが、人々の意識や行動が水辺から遠ざかっている状況が大きな課題。
- ・工場夜景は大きな価値を有しており、人々を引き付ける要素になっている。
- ・川崎港には運河域が広がっているため、運河を中心に藻場づくりなどを行い、子供たちと一緒に環境を学習できる場を提供するなど、様々な活用が期待できる。

◎

- ・道路の容量には、物理的な容量と時間軸上の容量がある。渋滞はある時間にピークが来て、それで車がはけない時に発生する。
- ・道路の渋滞問題に対しては時間的に分散させるという意味でデジタル化が緩和策の1つとなるが、それ以上に対策が必要になれば車線数の増設や駐車場の整備など物理的な改善策が必要になってくる。はしけ輸送の活用も渋滞対策の1つになる。
- ・カーボンニュートラルについて、一番先頭を切って走るという精神は大変大事である。
- ・ドローンは点検への活用だけでなく、物流での活用を国は進めようとしている。

◎

- ・貨物量の増加に伴い川崎港のコンテナ関連の用地は飽和に近づいている。この対応として、例えば空コンテナ置き場を内陸の方の地区に配置することより、渋滞対策も含めて利便性が上がるのではないか。
- ・市民の来港、雇用の確保、また来港者の多様化への対応のためにも公共交通の確保が必要。
- ・カーボンニュートラルの重要性の高まりもあり、水上交通、鉄道交通等、道路以外の利用に転換するといった動きが世界的に標準となってきたため、この動向を踏まえた方針などを示せないか。

◎

- ・川崎港のコンテナターミナルの発展の鍵は、背後にある冷凍倉庫などの企業と直結し、利用しやすい環境を構築したことにある。
- ・ひっ迫する倉庫容量への対応など、物流面の検討も大事。

◎

- ・将来像4に記載されている「誰もが」といった多様性の件は就労者のみでなく、住民や来訪者に対しても共通するものとして表現できればよい。
- ・多様な主体が川崎港でイベントの開催等をしているが、商業的なイベントや教育的なものなど様々なものが実施されており、今後こういった活動をしていきたいのかを明確に出せるとよい。

◎

- ・将来像の設定に当たっては、「カーボンニュートラルの拠点」と「既存産業の強化」を分けてはどうか。
- ・再エネの国内輸送におけるハブ港という観点を入れてもいいのでは。
- ・将来像の中には、担うべき役割に関するもの、運営に関するもの、それらを実施するためのアプローチに関するものと、複数の要素が含まれており少し整理できないか。
- ・将来像1については、「カーボンニュートラルの拠点」と「港の運営」は切り離してはどうか。
- ・位置付けの「経済社会の変化に適応した産業や豊かな生活を支える持続可能な川崎港」について、「経済社会の変化に適応した」が「産業」のみを形容しているか、「豊かな生活」にもかかっているのかを分かりやすく表現した方がよい。

◎

- ・港湾の労働力不足への対応については大きな論点。
- ・防災関係では、被災時でも産業活動を維持する視点があるとよい。
- ・長期構想のとりまとめに当たっては、一般市民の方に分かりやすい表現にできるとよい。

◎

- ・川崎港の強みを活かす施策をどのように取組んでいくのか明確にできるとよい。
- ・取組の中で、短期的に行うべきもの、中長期的に行うものを整理できるとよい。
- ・スクラップについては、今後の需要変化をしっかりと把握した上で検討すべき。
- ・冷凍冷蔵倉庫の果たす役割は、これからもさらに重要になると考えられるので、今後の立地動向や用地の需要を確認する必要がある。

- ・最近の動きの変化が大きいのので、内容をさらに掘り下げたヒアリングを行うとよい。
- ・長期構想なので、大胆な発想で理想像やあるべき姿を描いてもよい。

◎

- ・船舶の大きさや交通量の変化に伴い、航行のルール変更に関わるようなことがあれば早めに相談いただきたい。

◎

- ・将来像6にあるデジタル化は手段であり、その他の将来像にも関わるものであるが、デジタル化というキーワードが各方面に分散し全体として消えてしまうような感じにならないようにしてほしい。

◎

- ・カーボンニュートラルコンビナートの計画、扇島の計画など、長期構想と様々な計画が同時並行で動いている時期である。このような計画は策定するタイミングも重要である。引き続き本委員会での議論を深めて、実り多い長期構想をとりまとめていただきたい。

(5) 閉 会